

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の主体的な学習と、進路実現のための精選された教育課程編成を行う。また、各教育活動の相互交流が可能な教育課程の編成を行う。</p> <p>②生徒のわかりやすさに配慮した組織的な授業改善や、主体的な学習習慣の育成に取り組む。</p>	<p>①本校の特色ある教育課程の運用を図る。生徒の進路実現に向けた選択科目の精選を行い、相互交流の教育活動の展開を実現する。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの視点、及びインクルーシブ教育推進を踏まえた授業改善を一層推進し、ICTの効果的な実施に努める。</p>	<p>①効果的に教育課程を運用し、状況に応じて教育課程を修正する等のカリキュラムマネジメントに努める。</p> <p>②教員相互の授業参観や研究授業を、年間を通じて組織的・計画的に行う。ICTの授業への活用推進に組織的に取り組む。</p>	<p>①本校の生徒の特性に応じた授業を展開するために効果的なカリキュラムマネジメントができたか。生徒による授業評価の結果が向上したか。</p> <p>②個々の教員の授業の質の向上を図れたか。授業におけるICTの効果的な活用が推進されたか。</p>	<p>①インクルーシブ特別募集の生徒の選択幅を狭めないように芸術選択科目等の設定を再検討した。また、国語の選択科目では生徒の現状に適するように単位数の修正を行い、3年必修選択科目の枠組みの検討も行った。</p> <p>②全職員が対象の教員相互の授業参観は6月及び10～11月に実施したが、達成率はともに60%程度であった。指定研修に係る研究授業はきちんと実施されたが、研究協議等を組織的に行うことはなかった。また、ICTの活用は個々の教員の工夫に任せていた。</p>	<p>①3年必修選択枠の再編については今後も検討が必要である。教科の思惑が交錯し、抜本的な改編は困難となり、小手先の改訂となる可能性がある。教科代表者会議で連絡調整しながら改善策を探るのでは、なかなか改善は進まない。</p> <p>②残念ながら現状では職員の授業改善への関心が低い。授業改善に関する外部講師を招聘するなどして、職員の意識改革や啓発を進める必要がある。ICTの活用推進についても組織的に取り組む形作りが必要である。</p>	<p>○次年度授業改善に力を入れ、ゆくゆくは公開研究授業等で外に発信してもらいたい。</p> <p>○一人一台端末の有効的な活用をお願いしたい。小学校でもツールとして使っており、今後の進路、就職等でも必要なスキルとなる。</p> <p>○自発的な学習活動が必要となっている。</p>	<p>①効果的に教育課程を運用し、状況に応じて修正できた。インクルーシブ教育も含めた具体的な運用と進路実現に向けた選択科目の精選が課題である。</p> <p>②組織的な授業改善の取組を進めることはできたが、1人1台端末を踏まえたICT活用の効果的な活用が課題である。また、授業後の研究協議の進め方が課題である。</p>	<p>①3年必修選択枠の再編について、今後も検討が必要。併せて進路実現に向けた選択科目についても検討を行う。</p> <p>②「生徒による授業評価」の分析や授業研究の振り返りの強化により、授業改善を推進する。より一層ICTの効果的な活用を進める。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた支援・相談体制の充実を図る。また、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>②生徒が主体となった部活動、学校行事等を推進する。</p>	<p>①生徒一人ひとりの困難さやニーズに合わせた支援体制、外部機関との連携を含めた相談体制の充実を図り、課題の解決にあたる。生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>②特別活動等において、生徒が主体的に活動し達成感等が得られるよう支援し、課題解決能力の向上を図る。</p>	<p>①規範意識を高め、ルールやマナーを守る指導を行う。登下校指導、遅刻防止指導を行う。支援を必要とする生徒に支援を行う。</p> <p>②生徒が主体的に切磋琢磨し、計画・運営できる場面を多く設ける。行事などが、コロナ前に少しずつ戻ることも踏まえて生徒の活動を支援する。</p>	<p>①基本的な生活習慣が改善されたか。教育相談連絡会やケース会議を、支援の必要な生徒に生かし、課題の解決につながったか。</p> <p>②生徒会行事を通して、90%以上の生徒が達成感を持てたか。</p>	<p>①交通ルールやマナーに関しては下校指導等を通して指導した。近隣の方からの注意は減ってきているが、まだ継続的な指導が必要である。教育相談については、SC、SSW、専門機関の活用等充実を図った。</p> <p>②コロナ後、全校生徒が揃って行事を行い生徒の笑顔と声に戻ってきた。行事後のアンケートでは、「行事を楽しめたか」96%が「どちらかといえば楽しめた」「とても楽しめた」と回答。また「充実感や達成感があるか」92%が「どちらかといえばある」「とてもある」と回答。生徒会本部役員及び部活動の生徒による「朝の挨拶運動」を昨年度から継続し、挨拶の励行を促した。</p>	<p>①下校指導については継続した指導を続けていく。来年度の行事予定にも反映させ、全職員で取り組んでいく。教育相談については、引き続き各学年とも連携をとり、課題解決に努めたい。</p> <p>②コロナ感染対策を踏まえて、体育祭では種目数、翔矢祭では食品調理団体数を、コロナ前より減らして実施した。生徒が行事運営のルールを積極的に守ることができるよう、生活支援グループと協力して支援していく必要がある。</p>	<p>○生徒一人ひとりを見て、SOSを言い出せず悩んでいる生徒を見てもらいたい。</p> <p>○服装については、厳しめの指導をしているが、生徒との信頼関係を保ちながら行ってもらいたい。</p> <p>○交通ルールやマナーに関しては、現場にいる人がそこで注意をする方がよい。社会の冷たさを感じる。学校と、地域皆で支え合えると良い。</p>	<p>①定期的な生活指導の実施し、教育相談における外部機関との連携や支援体制の充実が図られた。多様な困難を抱える生徒へ引き続き支援体制を充実させる必要がある。</p> <p>②10月後、生徒の活躍が感じられ、生徒会行事や部活動に主体的に取り組み、達成感が得られるよう支援できた。挨拶運動における生徒のマネ等の醸成や行事運営のルールの遵守が課題である。</p>	<p>①継続的・計画的な生徒指導の実施。教育相談コーディネーター、担当者の更なる増強。SCやSSW等外部機関との連携の充実。</p> <p>②生徒会本部役員や各種委員会の生徒を活用し、今後を見据えた行事の企画立案を行う。「挨拶運動」は次年度以降も実施し、生徒が自発的に活動する場を作る。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>①多角的な視点を持ったキャリア教育を展開する。</p>	<p>①生徒の個性や進路意識の段階を踏まえ、個に応じたキャリア教育を推進し実践する。キャリア教育の視点を生かした教科指導、特別活動の指導内容等を研究する。</p>	<p>①生徒・保護者から情報を収集し職員で共有する。教科指導、特別活動等とも連携し、多面的なキャリア教育を実践する。</p>	<p>①生徒の個性や意識を踏まえた多面的なキャリア教育を実践できたか。</p>	<p>①各学年で発達段階に応じたガイダンスを実施するとともに、ガイダンスの事前指導、事後指導によって生徒の個性に応じたキャリア教育を実践した。</p>	<p>①3学年は、就職希望者1名が活動中である。今後も指導を続ける。新入生について、入学前から説明などを行い、スタディサプリの有効活用を図る。</p>	<p>○進学活動の際、経済面等について、十分な情報収集をしてもらいたい。</p>	<p>①計画的に個人面談や三者面談を行い、生徒一人ひとりを大切にしたキャリア教育の実践に努めた。教科指導におけるキャリア教育の推進が継続課題である。</p>	<p>①教科指導の中にキャリア教育の視点を生かすことについて、教員の意識化を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	②生徒・保護者への情報提供の機会の充実と、相談体制の確立を行う。	②生徒・保護者対象の説明会の実施、及び面談時の進路情報の提供の機会や内容を充実させる。	②生徒・保護者のニーズに応じた多様な形態のガイダンスや指導方法を研究・実践する。	②説明会、面談等での進路情報の提供、情報発信が適切で充実したものであったか。進路未決定者を5%以下にすることができたか。	②保護者向け進路説明会では、奨学金や入試制度の説明資料などを配付し、説明を行った。進路未決定者は5パーセント以下である。	②指定校推薦で校内選考を通過したものの、経済的な事情で進学を断念する生徒が2名。説明会等で、進学費用について丁寧な説明を行っているが、こうした事態が起きないようにより丁寧な説明を行う必要がある。 ・連携生の進路支援について、今年度、就職、進学ともに検討、実践を行った。インクルーシブプロジェクトとの円滑な連携をするための手続き方法などの明確化が今後の課題である。		②学年や生徒の進路に応じたキャリアガイダンスや進路に関する説明会を行い、生徒の納得いくような進路決定に導いた。日常的な指導の継続が課題である。 インクルーシブ教育における進路支援について、検討実践をおこなった。手続きを含めた組織的な方策が課題である。	②ガイダンスや説明会に至るまでの事前指導や実施後の指導を充実させ、3年間の組織的な進路支援を検討する。 インクルーシブ教育における進路支援では、プロジェクトを活かし、組織的な体制作りと、連携体制を整備する。
4	地域等との協働	①地域と連携し、学校の特色を周知するとともに生徒の社会性を育成する。  ②地域との協働による幅広い教育活動の場を設定する。	①学校の教育活動を説明会や電子媒体、生徒の発表等で地域等に向けて発信し、地域との協働や地域貢献活動の充実を図る。  ②地域の教育力を活用できる仕組みの充実と開拓を進める。地域社会における教科「キャリア」の教育活動の実践を図る。	①PTA等との連携した活動によって、学校の教育活動を地域に発信する。地域の活動に生徒が参加できる場を設定する。  ②説明会やイベント等での生徒の活躍の機会を設定する。教科「キャリア」の教育活動を実践し、その効果を学校全体で共有する。	①学校の教育活動を地域に向けて発信できたか。地域の活動に生徒が参加できたか。  ②生徒の地域での生き方や在り方のイメージづくりにつながったか。	①9月9日の文化祭は4年ぶりの一般公開となり、地域の方にも来場していただき、本校の活動をお見せすることができた。PTAは会場の出入口にあたるシンデレラ階段への装飾、ゲームコーナー、広報誌展示、制服リサイクル等の活動で本校の活動に貢献していただいた。学校説明会等では生徒が積極的に説明を行った。  ②10月8日に4年ぶりに開催された上矢部連合町内会大運動会で本校のグラウンドを利用していただいた。また、10月20日は地域貢献活動の一環として近隣の清掃奉仕活動を行い、約100名の生徒が参加した。10月21日に開催された「竹灯籠の夕べ」に生徒、PTAが竹灯籠づくり、展示の提供を行った。	①学校の教育活動の発信として、美術科は公開・発表の場がいくつもあるが、インクルーシブ教育実践推進校であるということもあり、普通科も含めて本校の教育活動の発信をより行っていきたい。  ②「竹灯籠の夕べ」はPTAの年間行事に組み込まれており、今後も継続して参加していきたい。ただし、これだけでなく、地域のイベント等に本校の部活動等の発表の場が設けられないかが課題。	○ホームページ等も含め、外部への情報発信力が足りないのではないのか。  ○地域における生徒の発表の場は、提供できることもある。	①PTA活動や地域連携が実施され、継続して地域行事の参加や地域連携活動が実現できた。さらなる地域連携の模索や活動方法検討が課題である。  ②学校説明会を開催し、多くの中学生保護者の参加があり、本校生徒の参加もあり、本校の教育活動の発信ができた。地域への生徒の教育活動の発表の場を作れないか検討する。	①可能な限りの地域連携や地域貢献活動など、生徒の参加を含めた方法等を工夫する。  ②学校紹介の内容を充実させ、教育活動の地域への発信を改善し、ホームページを含め積極的に発信する。
5	学校管理 学校運営	①全職員の共通理解のもと人権に配慮した生徒への対応を行う。  ②安全・安心で信頼できる学校環境の整備を行う。業務の効率化を行う。	①職員の共通理解のもと、人権に配慮した生徒への対応等、教育活動を行う。  ②業務の効率化を進めるとともに、不祥事防止に取り組む。成績処理や会計処理等を正確に行う。	①障がい者、マイノリティに対する理解等、人権に配慮した研修を行う。  ②勤務時間内の会議の徹底や業務内容を精査し効率化を推進する。不祥事防止点検シートを活用し研修を行う。	①人権に配慮した教育活動を再確認できたか。  ②働き方改革を意識し業務効率化に努めたか。ハンドブック等に基づき適正な事務・会計処理を行ったか。	①研修については実施(12/22)し、注意喚起を行った。  ②働き方改革を意識し、業務のスリム化、会議の効率化等、啓発を行った。職員会議において、不祥事防止のテーマごとに計12回点検を行った。8/24財務事務調査、9/18会計監査に向けて、会計事務処理の適正化を図った。	①人権侵害のないように、職員がお互いに注意し、意識を高めることが必要。  ②成績処理や年度替わりのときの個人情報に係る文書の管理等、私費会計決算等、引き続き留意していきたい。	○防災について、学校の救助袋の位置を検討してもらいたい。	①生徒の自己肯定感を育てる実践法の研修会を実施し、教職員の教育力向上に繋がった。教職員の入替りの中、継続したインクルーシブ教育の体制確立が課題である。  ②大きな不祥事もなく、不祥事防止ゼロプログラムのとおり実施できた。個人情報の取扱い、私費会計等が継続課題である。	①インクルーシブ教育に関わる内容を含めた人権に配慮した内容のテーマの幅を拡大し、研修会の充実を図る。  ②令和6年度不祥事防止ゼロプログラムを現状に合わせ策定し、引き続き不祥事防止啓発活動を行う。